



2016年7月11日

各 位

会社名 科 研 製 薬 株 式 会 社
代表者名 代表取締役社長 大沼 哲夫
(コード番号 4521 東証一部)
問合せ先 執行役員総務部長 中村 賢一
(TEL. 03-5977-5002)

杏林製薬と科研製薬、アレルギー性疾患治療薬「デスロラタジン」の コ・プロモーションに関する基本覚書締結について

キョーリン製薬ホールディングス株式会社（本社：東京都千代田区、社長：穂川 稔）の子会社である杏林製薬株式会社（本社：同、社長：宮下三朝、以下「杏林製薬」）と科研製薬株式会社（本社：東京都文京区、以下「科研製薬」）は、杏林製薬が日本における独占販売権を有するアレルギー性疾患治療薬「デスロラタジン（一般名）」について、両社によるコ・プロモーション（共同販促：1ブランド1チャンネル）に関する基本覚書を締結いたしました。

「デスロラタジン」については、MSD株式会社（本社：東京都千代田区、社長：ヤニー・ウェストハイゼン、以下「MSD」）が下記の通り製造販売承認申請中で、承認取得後に杏林製薬が単独で発売いたします。杏林製薬は、呼吸器科、耳鼻科の医師・医療機関を中心に本製品の早期浸透を図る一方、本覚書に基づき、科研製薬が、皮膚科の医師・医療機関を対象としてプロモーションを行い、杏林製薬から一定のプロモーション・フィーを受け取ります。

なお「デスロラタジン」は、杏林製薬がMSDの関連会社との契約締結（2016年5月プレスリリース）により日本における独占販売権を取得しています。

杏林製薬は、フランチャイズ・カスタマー戦略（重点領域：呼吸器科、耳鼻科、泌尿器科）を推進しており、重点領域でのプレゼンスの向上を図るとともに、科研製薬とのコ・プロモーションにより、製品普及の最大化を期待いたします。

科研製薬は、この機会を重点領域の一つである皮膚科領域でのプレゼンスを高める提携と位置づけ、「デスロラタジン」の積極的なプロモーションを展開してまいります。

連結業績予想につきましては、現時点では修正いたしません。今後の状況により、適時適切に開示いたします。

（参考資料）デスロラタジンについて

日本国内では新規有効成分の第二世代ヒスタミンH1受容体拮抗薬として「アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患（湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症）に伴うそう痒」の適応症で2015年10月に製造販売承認申請をしています。海外では米国や欧州など世界120カ国以上で承認されています。

以 上